

めよう
らない。
者に選
手間を
簡みし
し、単
売り上
化し、

◆地域活動

オキナワモズク養殖適地試験Ⅱ

與那嶺 盛次

1. 目的

国頭村や伊是名村のオキナワモズク(以後本モズクという)養殖場が、北風の影響で本モズクが切れるところが多いこと、サンゴの繁殖等で養殖漁場が狭められていること、加えて天候不順等で生産量が激減しているため、昨年度に引き続いて養殖適地試験を実施した。

2. 材料及び方法

国頭村：養殖試験の作業管理は、国頭漁協養殖部会が行った。本モズク種苗は、培養種を普及センター本部駐在より提供し拡大培養して種付けを実施した。養殖試験場所は、東村宮城地先で、新網の養殖試験を兼ねて実施した。養殖新網(1.5×20.0m)は、栄養加工F網20枚、無加工F網20枚、無加工網20枚で合計60枚であった。養殖新網は第一製網株式会社の製品を使用した。

伊是名村：養殖試験の作業管理は、伊是名村漁協モズク生産部会が行った。本モズク種苗は、培養種を普及センター本部駐在より提供し拡大培養して種付けを実施した。養殖試験場所は伊是名村伊是名地先で、養殖網(1.5×18.5m)60枚で実施した。

3. 結果及び考察

国頭村：平成18年10月17日、本モズク種苗(8L)を養殖部会に提供した。培養種での種付けが、大雨による塩分低下や塩素滅菌時の中和ミスで失敗し遅れた。平成19年1月18日、共和コンクリートと国頭漁協の共同実験施設にある水温と照度(ハロゲンライト6個)を調整できる水槽(1.5t)を使用し種付けを実施した。

養殖新網30枚(栄養加工F網10枚、無加工F網10枚、無加工網10枚)を培養種10Lで種付けした。水温は20℃に調整し、照度は2万ルクスにした。8日後に確認板を観察したところ多数の盤状体が付着していたが、緑藻もでてきたので照度を5千~1万ルクスに調整した。12日後に緑藻が減少し網も茶色になったため、育苗に移した。

第2回目の種付けは、平成19年1月31日前回同様の養殖新網30枚を培養種10Lで種付けした。水温は20℃に調整し、照度は5千~1万ルクスに調整した。種付け15日後に育苗に移した。3月22日本張りの状況を潜水観察した。モズクは約10cmに伸びていたが、雑藻が混ざっていた。

5月22日から4日間、雑藻も消失したので収穫を実施し、3,122kg(養殖新網60枚)を水揚げした。養殖新網1枚当たりの収穫量は、栄養加工F網が78.1kg、無加工F網が40.1kg、無加工網が38.0kgで、栄養加工F網が良好であった。

伊是名村：平成18年10月26日、本モズク種苗(4L)をモズク生産部会に提供し、養殖適地試験計画について検討した。平成19年3月19日の潜水観察では、全体的に良好で約20cmに伸びていた。

5月2日、3日、4日、7日の4日間で収穫を実施し、3,216kg(養殖網60枚)を水揚げした。養殖網1枚当たり53.6kgで前回に比較して悪かった。

4. 今後の課題

(1) 継続試験による再現性の確認

に張

らに



①国頭漁協養殖部会モズク種培養施設



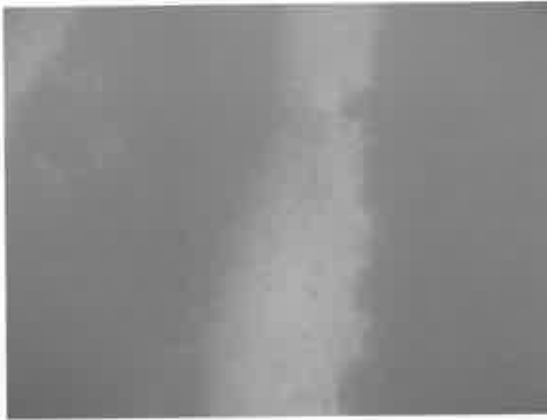
②国頭漁協養殖部会モズク種培養施設内部



③試験に使用した養殖新網



④国頭漁協養殖部会が使用した種付け水槽



⑤モズク本張り(東村宮城地先)



⑥モズク収穫作業(東村宮城地先)



⑦モズク本張り(伊是名村伊是名地先)



⑧モズク本張り(伊是名村伊是名地先)

◆地
1. シ
を給
して
昨年
2. 使
した
験区
N
N
N
N
N
N
棟
m
の
ま
チ
2
オ
6
と
重
評
ば
3